

1 - 2 形態

(1) 形態

- ・周辺景観との調和に配慮し、全体的にまとまりのある形態とする。

景観区 すべて

【解説】

建築物の形態・意匠がまちなみの景観に与える影響は大きく、自己主張の強い建築物はそれ自体のデザインの評価に関わらず、地域の景観を損なう可能性があります。

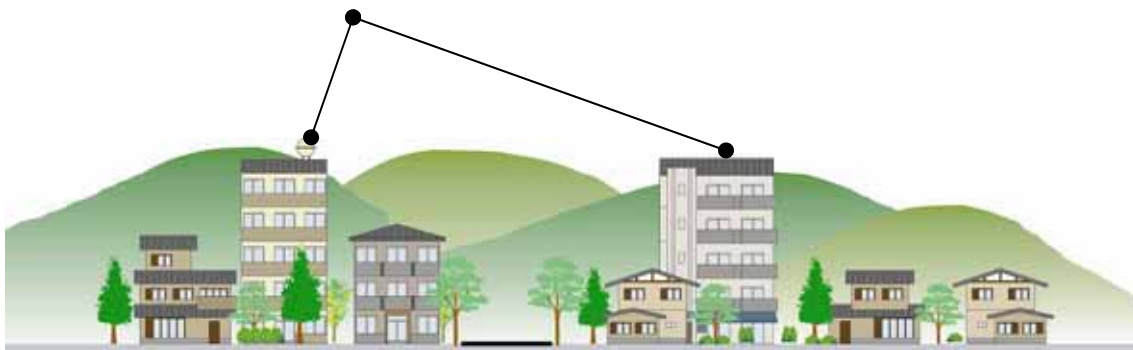
建築物の形態は、周辺景観を形成している自然景観や既存の建築物などの形態・意匠に配慮したものとします。また、外壁に付帯する施設・設備についても、建築物と一体的にデザインします。

特に、大規模建築物は、周辺に多大な影響を及ぼすことから、ヒューマンスケール（人間の体を設計基準にして決めた空間）に配慮したデザイン的な工夫を行うことが必要です。

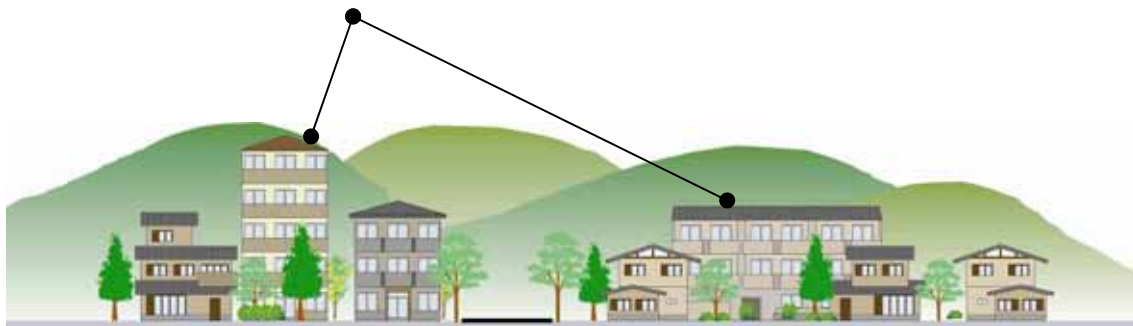
建築物の形態への配慮

建築物の形態は、周囲の建築物との連続性や統一感が感じられるものにします。

違和感を感じさせる例



背景の山並みに調和させた例



建築物のスケール感への配慮

大規模な建築物の長大な壁面や大面積の壁面は、周辺地域に圧迫感を与えたり、周辺地域のスケール感を損なうことのないよう、工夫します。



建築物の高層部の壁面を後退させることで、圧迫感を無くし、まちなみの持つスケール感を維持した例

(2) 建築物の高さ

- ・ 建築物の高さは、樹林の樹冠の連続性にできるかぎり影響を与えないよう配慮する。やむを得ず樹冠より突出するときは、勾配屋根とし、妻側を河川に面するよう配置する。

景観区：河

【解説】

建築物などの高さが周辺の景観に与える影響は大きく、周辺の建築物などや樹林の高さから突出した建築物などは、スカイラインを乱し、地域の景観を損なう可能性があります。

河畔林景観区における建築物などの高さは、周辺の河畔林などの樹林の樹冠の連続性に配慮して決定します。やむを得ず樹冠より突出する場合は、樹林を構成する樹木の樹形に馴染む勾配屋根とし、河川に面する側を妻側とすることで、景観への調和を図ります。

妻側とは、棟に対して直角に接する側面のことで、この妻側を通りに見せている建物を妻入りといいます。

(関連：1 - 1 敷地内における位置)

(関連：1 - 3 規模)

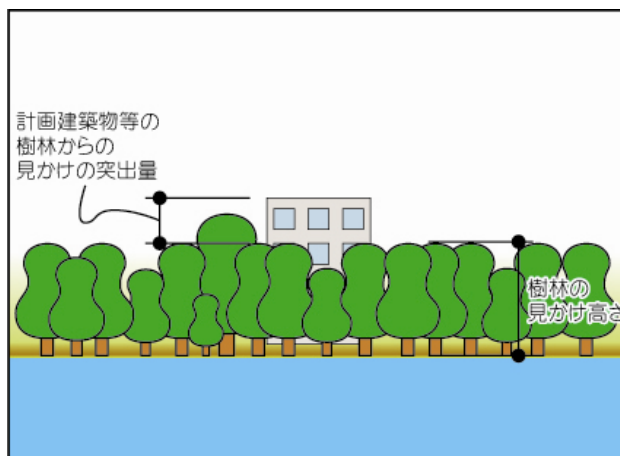


妻側・妻入り



平側・平入り

樹林の見かけの高さは、計画建築物などの前景の樹林の根元から樹冠が形成する連続的なラインの平均的な高さとしてします。



(3) 屋根の形態

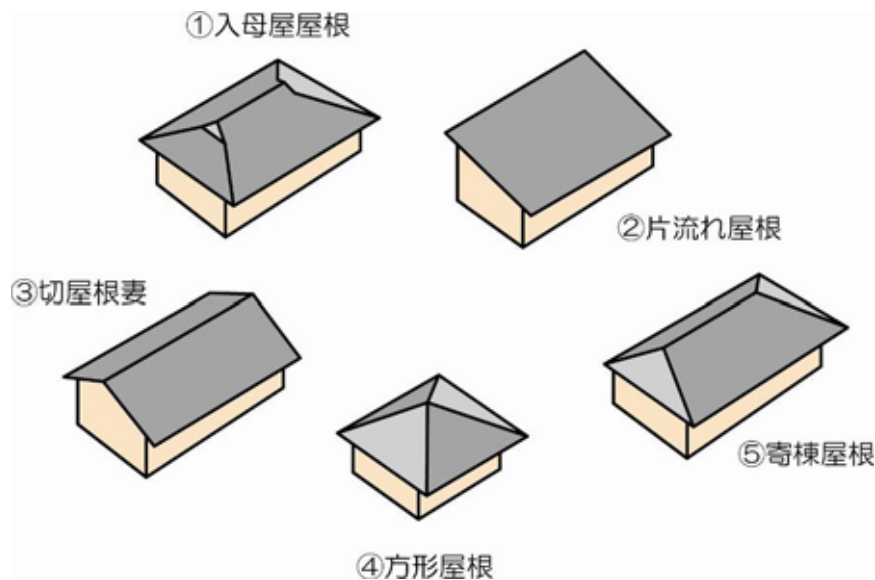
- ・周辺の建築物の多くが入母屋、切妻などの形態の屋根を持った地区又は周辺に山稜若しくは樹林がある地区にあっては、原則として、勾配のある屋根を設ける。

景観区 すべて

【解説】

勾配屋根は長い歴史のなかで受け継がれてきた形態であり、大津市においても多くの地域で景観の特徴の一つとなっています。また勾配屋根は、景観の背景となる山なみや樹木の勾配（角度）をもった輪かくにも調和しており、人々の心に奥深く溶け込んだ日本建築の象徴ともいえます。

勾配をもった山並みや樹木を背景とした地域や勾配屋根をもつ建築物で形成された地域では、違和感をかもし出すような屋根の形態は避けます。



出典：構造用教材（（社）日本建築学会 / 技報堂出版）

・勾配屋根は、原則として適度な軒の出を有するものとする。

景観区：砂・山・田・河

【解 説】

日本人が古くから深く馴染んできた建築物の形態は、適度な軒の出を設けることで一層の安定感を感じさせるとともに、その陰影効果により景観への馴染みや建物の質の向上が期待されます。

集落水辺景観、市街地水辺景観においても、原則として軒の出を確保することが望まれますが、相当の密度で建ち並び、建築物群としてまとまりのある景観を形成している場合や矮小宅地などにおいて敷地の余裕に乏しい場合はその限りではありません。

形態
1
2



地域固有の伝統的な入母屋造の屋根デザインを踏襲することで、特徴ある集落景観を維持している例



集合住宅の屋根を切妻の勾配屋根とすることで、隣接する伝統的な木造建築物との調和したデザインとした例



地域特性である酒蔵のまちの屋並みの連続性に配慮し、勾配屋根とした工場の例

(4) 屋上設備

- ・ 屋上設備は、目立たない位置に設け、建築物本体及び周辺景観との調和に配慮する。ただし、これにより難しい場合は、目隠し措置など修景措置を講じる。

景観区 すべて

【解説】

屋上に設置される設備機器や塔屋などは、まちなみやスカイラインに大きな影響を与えるものです。特にタンクや室外機などが剥き出しとなった建築物は、例え建築物自体が魅力あるものでも、周辺の景観を大きく損なう恐れがあります。

屋上に設置される設備機器や塔屋などは、通りから見えない位置に設置したり、できるかぎり建築物と一体的にデザインすることで、全体的にまとまりのある形態なるよう配慮します。やむを得ず通りから望見できる箇所に設備を設置する場合は、その設備が景観を阻害しないよう、壁面を立ちあげたり（パラペット）、ルーバーなどの目隠し措置を講じます。

特に、大津市の景観の特徴である背景の山並みや琵琶湖への眺望景観を阻害しないよう配慮します。

建築物と一体的にデザインする

屋上設備は、建築物などとの一体的な印象となるよう、デザインを工夫します。



建築物の外壁と形態・意匠を合わせることで、建築物と一体的にデザインされた塔屋の例

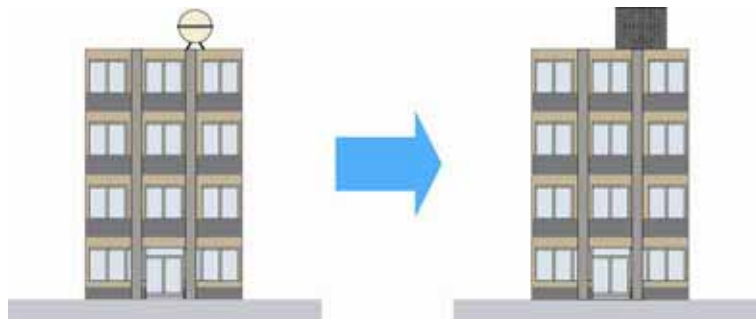


太陽光パネルを屋根材として一体的にデザインした例

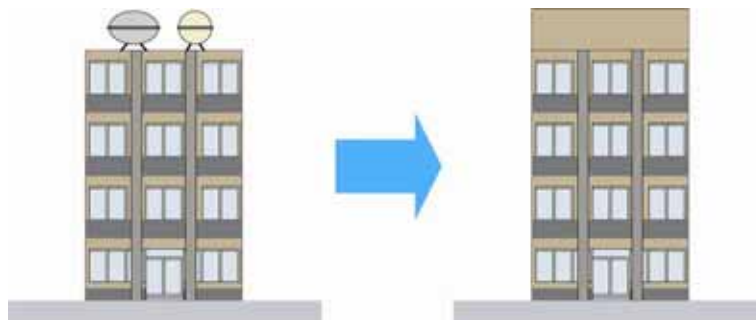
- ・ スカイライン : 山や建物などが空を区切って作る輪郭、空を背景とした輪郭線。
- ・ パラペット : 建物の屋上、テラスのへり、橋梁の両側などに設け、人の落下を防ぐ手すり・勾欄(こうらん)。
- ・ ルーバー : 壁や天井の開口部に、羽板(はいた)を縦又は横に組んで取り付けしたもの。羽板の向きを変えて直射日光や通風を加減する。

屋上の施設を隠す

やむを得ず露出する場合は、壁面を立ちあげたり（パラペット）、ルーバーなどの目隠し措置を講じ、建築物などとの一体的な印象となるよう配慮します。



通りから屋上設備が見える場合は、ルーバーなどで修景します。



屋上に多数の施設がある場合は、パラペットを立ち上げて屋上全体を目隠しします。



屋上の壁面（パラペット）を高く立ち上げることにより、屋上の設備を目隠しした例



ルーバーにより、屋上の設備を目隠しした例



屋上の設備をパンチングメタルのフェンスにより目隠しした例

